

平成 29年 9月作成

生活支援体制整備事業に関する市町村の取組

福島県 浅川町

福島県 浅川町

基礎データ

作成時点: 29年 9月

- 総人口: 6,371人 (H29.4.1現在 … 浅川町調べ)
- 高齢者人口: 1,997人 (H29.4.1現在 … 浅川町調べ)
- 高齢化率: 31.3%
- 要介護・要支援認定者数: 295人 要介護認定率: 14.8%
(H29.4.1現在 … 浅川町調べ)
- 日常生活圏域数: 1 圏域
- 地域包括支援センター数: 委託 1ヶ所
- 第6期介護保険料: 4,900円 (厚生労働省ホームページより)

高齢化率は全国、県平均を超えているが、要介護認定率、介護保険料は全国、県平均を下回っている。

【生活支援体制整備事業】

協議体

1 設置状況

- ・ 第1層 (平成29年 4月 設置)
 構成員: 地区組織、市民団体、老人クラブ、
 民生委員、保健協力員、住民 等
- ・ 第2層は設置していない。

2 設置までの経緯

- ・ 地域づくり講演会の終了後に、「あったらいいね」や「自分たちにできることを話し合う場」に興味がある人を募ったところ、26名の希望者が手を挙げた。

3 開催の状況

- ・ これまで「地域でできている事・あったらいい事」、「移動手段」、「地域資源マップづくり」というテーマで3回開催し、自分たちの地域を見直し、買い物の配達、医療機関への送迎等、今ある資源の情報を持ち寄り、資源マップの作成に取り組んでいる。9月には持ち寄った情報を住民にどのように伝えるかというテーマで協議体を開催する予定。

4 設置したことによる効果

- ・ 住民の有志による協議体であり、参加者は支え合い・助け合いの意識が高まっており、住民が主導的に考える機会になっている。
- ・ 一方で、関係が希薄になっている地区においては、支え合い・助け合いの意識をどう広げていくか、県外からの転入者と住民の温度差、人選(固定した方が良いという意見と、参加者の負担になるという意見)等が課題になっている。

○ 協議体の活動



生活支援コーディネーター

1 設置状況

- ・ 第1層 (平成28年 7月 設置)
 配置場所: 地域包括支援センター 職種: 1名 (看護師、主任ケアマネージャー)
- ・ 第2層は設置していない。

2 設置までの経緯

- ・ 地域包括支援センターに委託という形ではなく、町が専任で雇用し配置先も地域包括支援センターとしている。
- ・ 地域包括支援センターは保健センターと同じ建物であり、生まれてすぐから高齢者まで一体的に関わることができ、多職種による対応が可能になっている。また、生活支援コーディネーターの設置前から、地域包括支援センターが住民の戸別訪問やサロンの立ち上げを行っており、行政と地域包括支援センターと生活支援コーディネーターの連携、支援が図られている。

3 活動の状況

- ・ 高齢者独居や高齢者のみ世帯の不安軽減と安否確認のため、中学校の協力を得て絵手紙を送り、返信がない世帯を民生委員や地域包括支援センターと連携しながら訪問。
- ・ 地区サロン活動に参加し、高齢者と交流する中での実態把握。
- ・ 行政の障がい担当者による「生活のしづらさに関する調査」の戸別訪問に同行し、地域を深く知ることができた。(小さな町であり行政の縦割りはない)
- ・ 高齢者サロンの開設準備と、体操支援を目的とした運動ボランティア養成講座の実施。(サロンは16ヶ所で実施)

4 設置したことによる効果

- ・ 地域包括支援センターと同じフロアに配置されたことで連携が取りやすい。
- ・ 1人暮らしや高齢者世帯のニーズがより深く、きめ細やかに把握でき、数値化することで地域に必要な資源を具体化できている。

5 今後の展望

- ・ 今地域できている支えあいや助け合いをPRしていくことで、継続や拡大に繋げていく。
- ・ 地区ごとの課題や必要な支え合い・助け合いについて話し合うことで、地区の担い手の役割を明確にしていくとともに、若い世代の参加を増やしていきたい。(例えば地元中学生による雪かき)
- ・ 地域の課題や必要な助け合いについて、地域の人たちが考えて、自ら行動できるように支援していきたい。
- ・ 社会福祉協議会と連携し、登録ボランティアを養成したい。

○運動ボランティア養成講座

目的:

高齢者の転倒予防や健康づくりに必要な運動の基礎知識・技術を学び、高齢者サロンを中心に運動支援しながら、自らも生きがいにできる方を養成する。

対象:

60歳から70歳前半で、サロンなどの活動にボランティアで関わっている方。定員を15名程度で募集したところ、23名の方が受講。

内容: スポーツインストラクターによる
毎週1回(2時間)×15回の講座



○地域づくり講演会アンケート結果

・ 地域の中で普段からできている助け合い

『近所の人たちに声かけ合って一緒に散歩する。』

『ご近所さんが雪かきしてくれる。』

『ご近所さんが1人暮らしのお宅の電気がついているか、新設がたまっていないか、カーテンが開いているか気にしてくれている。』

『お友達同士やご近所さんでおかずや野菜を分け合ったり、緊急連絡先の交換をしている。』



参加者同士でグループワークしたことが
話し合うことで分かり合えるし、助けてほしい時にお断りしやすい関係ができると好評でした。

○実態調査内容 (平成28年8月～平成29年7月)

- ・ 民生委員との情報共有後、優先順位の高い(何らかの支援が必要だと思われる)また、未把握の65歳以上の方を訪問調査 111名(実人員) 【独居75名・高齢者世帯15名・別棟21名(同居を含む)】
- ・ 『生活の中で困っている事』・『助けてほしい事』 また、『誰かに助けてもらっている事』・『地域の資源で利用している事』など、困っている内容の調査票を作成し、聞き取りした。

○調査票『困っている事・助けてほしい事調査票』

①どのように生活をしたいですか。	生活の楽しみ・生きがい・やってみたい事
②地域とのつながりや役割はありますか。	隣近所との助け合い、お茶飲み(話し相手)、見守り(安否確認)をしてくれる人はいますか。
③困っている事、助けてほしい事	1 日: 食事、洗濯、入浴、掃除 1週間: ゴミだし、買い物 1か月: 布団干し、医療機関の受診 年間: 夏草取り、エアコンの掃除 冬 雪かき、大掃除 その他:
④緊急時の連絡先	
⑤かかりつけ医・生活歴等	

○実態調査結果(1)

日常生活(買い物・掃除・ゴミ出し等)での支援の必要度
111名【独居75名・高齢者世帯15名・別棟21名(同居を含む)】

I. 支援の必要がなく自立している	40名 (36.0%)
II. 家族、周りの人、地域資源に 支えられている	52名 (46.8%)
III. 支援が不足している	19名 (17.2%)

○実態調査結果(2)

- II. 近く家族、周りの人、地域資源に支えられていること(重複回答)
- 買い物 32件 雪かき 25件 受診 14件
草刈り 14件 ゴミ出し 7件 掃除 4件
- III. 支援が不足していると答えた人困っていること(重複回答)
- 家の中の掃除 4件 買い物の移動 4件
友人に会いに行くなどの移動手段 3件 雪かき 3件
食事の用意 2件
受診の移動手段 1件 回覧板を回す 1件 草刈り 1件

○実態調査結果(3)

【訪問からみえたこと】

- ・ 町全体的に隣近所との関係が良く、安否確認を含め声かけや助け合いができている。
- ・ 買い物は、移動販売者の利用したり、配達を依頼したり、友人や子どもに同行を依頼したりしている。
- ・ 雪かき、草刈りはシルバー人材センターを利用。また、隣人や子どもが手伝ってくれる。
- ・ 医療機関の受診は、町内外の送迎があるところを利用している。
- ・ ゴミ出し・掃除は、隣人や家族が気にかけてくれる。